



ゆみこの日記

—女性会議の「学習会」—

先輩の言葉に力をもらう



3月24日(日)、(ア)女性会議福島県本部の学習会に参加し、講師の池田芳江さん(前退職女性教職員あけぼの会会長)より、「私が伝えたい『女・子ども・平和』のこ

と」をテーマに、たくさんの興味深いお話をうかがいました。
この中で、「私たちは主権者だ」という言葉が強く印象に残りました。
政治家を選んでいるのは私たちで、政治を変えるのも私たち。その私たちが政治に無関心でいることが様々な問題に繋がっています。他人事でなく、「自分ごと」として関心を持って、まず話すことから始めていくこと、そして、子どもたちに本当のことを伝えられる社会にしていきたいと思います。という言葉に感銘を受けました。



楽しかった！小倉寺町会「春の交流会」
3月9日(土)、小倉寺町会「春の交流会」に参加し、ご近所の皆さんと楽しく過ごしました。
私も会員になっている歌の会や、千寿会、女性部の方々での合同イベントで、コロナを経て5年ぶりの開催とは思えないほど、歌やゲームで大盛り上がりしました。

原発のない福島を！県民大集会

3月16日(土)、全国から1,200人が集まって、パルセ飯坂で「原発のない福島を！県民大集会」が開催され、原発事故を再び起こさないため、事故を風化させてはならないとの思いを新たにしました。



三浦ゆみこと歩む会



ぜひ、歩む会の
会員になって下さい

〒960-8142

福島市小倉寺字町畑 13

TEL / FAX : (024) 563-1539

E-mail : miura.yumiko5.27@gmail.com

社民党・福島市議会議員



三浦ゆみこと歩む会



AYUMU KAI News Letter No.3 2024年4月

誰一人、取り残されることのない社会を 3月議会で3度目の質問

3月11日、3月定例会議で3度目の質問に立ちました。

この間、「デジタルクーポン」に関する質疑の中で強く感じた「誰一人、取り残されることのない社会」という視点を持ちながら、障がい者・高齢者福祉を中心に、市民生活に大きく関わる6つのテーマについて質問してきました。

3月11日、午後2時46分

東日本大震災から13年を迎えた3月11日、地震が起きた午後2時46分、三浦由美子の質問を一時中断し、議員、傍聴者全員で1分間の黙とうが捧げられました。

地震、津波、そして原発の過酷事故に見舞われた福島は、「くらしの安心・安全」は普通にそこにあるものではなく、不断の努力が大切であることを学びました。

それが、「安心・安全な福島」を追求する三浦由美子の原点です。

最初に手話を交えてごあいさつ。

「皆さん、お疲れさまです。三浦由美子です。一人会派ではございますけれども、社民党に所属する議員の立場から質問させていただきます」

市民の声が届く市政めざし

人によりそい、未来につなぐ

3月11日、3月定例会議で、3度目の質問に立ちました。

今回は年度末ということもあり、昨年9月、初めての定例会議での一般質問で取り上げた介護の問題や障がい者計画の内容について、再確認の質問をしました。
折しも、東日本大震災から13年を迎えたこの日、今年1月1日に起きた能登半島地震にも関連する内容として、「災害時に対する安全・安心」に向けて今一度見直すべき点を質問しました。

また、本市において高齢者の暮らしを支える大きな柱である、75歳以上を対象とした「ももりんシルバースポーツ」の見直し案について、市民の皆さまから「現行の制度を残してほしい」という切実な声がたくさん寄せられています。こうした生の声を強く訴えてきました。

将来にわたって、安心して暮らせる住み良い福島市であるために、市民の皆さまの声に寄り添い、応えていけるよう、今後とも努力してまいります。

三浦由美子

フィジーからのお便り 女性が輝けば社会も輝く

現在、ジャイカボランティアで、フィジー国シナヌ町役場に勤務している友人、古川仁さんから、3月7日・8日に行われた「女性エキスポ」(見本市)のレポートが届きました。

このエキスポは、3・8国際女性デーのイベントの一環として、フィジー女性起業家の才能を称えて開かれたもので、政府が国家行動計画を通じて「女性のエンパワーメント」を積極的に後押しし、女性の経済的地位向上を促す気運が高まっているそうです。

フィジーの女性たちのいきいきとした笑顔が素晴らしいですね！

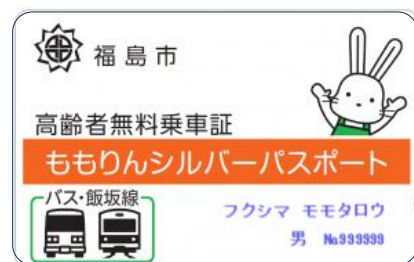


3月議会で一般質問に立ちました — 裏面にダイジェスト版を掲載しています

■ 質問項目 ■

- 障がい者のスポーツ参加等について
 - (1) 障がい者の方々のスポーツ参加について
 - (2) 2025年デフリンピック開催について
- ももりんシルバーパスポートについて
- 福島駅東口のまちづくりの将来構想について
- デジタルクーポンの結果について
- 高齢者福祉の充実・課題について
- 障がい者計画の質的強化について

🍀🍀 シルバーパスポートは高齢者の大切な「足」 市民の切実な声に耳を傾けて！



75歳以上の高齢者が無料で公共交通を利用できる「ももりんシルバーパスポート」

3月4日、「高齢者の運賃補助見直しへー上限年間2万円に」との新聞報道がされてから、「何としてもこの制度を残してほしい」という多くの声が寄せられています。時間の都合でその中から3人の市民の声を紹介し、「ももりんシルバーパスポート」が高齢者の心身の健康、明るい生活に欠かせないことを訴えるとともに、今回の見直しの理由を質問しました。

これに対し、都市政策部長から、外出機会の増加でフレイル予防に一定の成果があったとする一方、公共交通が利用しにくい地域では利用率も低く、高齢者の運転免許証の返納につながっていないとの認識が示されました。

また、木幡市長からは、現行では公共交通の不便な地域の高齢者は利用しにくく、タクシー利用を追加して全ての地域で利用しやすい「公平・公正な制度にしたい」、バス・電車が無料でタクシーだけ上限を設ければ、それも「公平・公正ではない」、また、一人で多額の利用をし

市民の声(Aさん)

新聞を読みおどろいています。

私はバスを利用して、1回乗ると700円必要です。趣味、アオウゼの講座、その他、健康講座などに積極的に参加し、ボケ防止に務めています。

今はとても助かっています。年間2万円になってしまつては、家にひきこもり、足腰も弱くなり、頭もボケそうです。運転できない人はバスに頼るしかないのです。もう一度、市民の声に耳をかたむけ、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

ている人の例を挙げ、市の財政を圧迫している現状も含め税負担のあり方として「いかがなものか」といった答弁がありました。

これに対し、高齢者の社会参加と公共交通の利用促進という創設目的を思い起こすとともに、寄せられている市民の切実な声を受け止めて、見直しの再検討を改めて強く求めました。

🍀🍀 健常者、障がい者がともにスポーツを楽しむために

障がい者のスポーツ参加等については、昨年の「ふくしまシティハーフマラソン」で途中棄権した聴覚障がい者が送迎バスに乘れず取り残されるという残念な出来事を踏まえ、健常者、障がい者がともに参加できるスポーツ大会の運営や現状などについて意見を含め、質問しました。



東京2025
デフリンピック



2025.11.15(SAT) - 26(TUE)



また、来年11月、日本で初めて開催される、ろう者のためのオリンピック「デフリンピック」について、福島県ではJヴィレッジでサッカー競技が実施されることから、デフリンピックの認知度を高め、大会をともに盛り上げる取り組みについて質問しました。

これに対し、市民文化・スポーツ部長から、共生社会の推進する立場から誰もが参加できるスポーツ機会の創出に取り組む姿勢が示され、手話通訳の配置など、障がい者の参加を想定したさまざまなサポート体制について答弁がありました。

また、「デフリンピック」についても、機会を捉えて大会の周知と気運の醸成に努めること、デフリンピックの詳細な情報の把握につとめ、特に合宿などのイベントに合わせて市民との交流の場を作るなどの取り組みを進めるとの答弁がありました。

傍聴に来て下さった皆さま、ありがとうございました



75歳以上の方々への「ももりんシルバーパスポート」に上限額を設けるという見直し案に不安を抱えている方々を中心に、今回の一般質問には25人の市民が傍聴に足を運んでくださいました。

高齢者の健康な日常や社会参加の機会を狭めることのないよう、市民の皆さんの声を市政に伝え、市の施策につなげていきます。

市民がわくわくできる

🍀🍀 駅東口のまちづくりを

駅東口の再開発について、市民の意見が反映されるよう進めてほしいとの思いで検討過程について質問しました。

これに対し、都市政策部長から経過の説明と、市長からは検討会では概ねコンベンションホール(B案)で進んでいるが、これに縛られず幅広く市民の皆さんの意見を伺い、6月議会を目途に決定していきたいとの答弁がありました。

🍀🍀 デジタルクーポンの評価について

デジタルクーポンの利用率は43%で、紙のクーポン80%の約半分であったことについての評価を質問し、商工観光部長より、「今後もデジタル化を推進ながら、苦手な方にも丁寧に対応したい」との答弁がありました。

デジタル機器の購入や操作が困難な市民も少なくないことから、誰ひとり残さない対応を求めました。

🍀🍀 高齢者を支える地域体制を

高齢者を支える地域体制の中核を担う地域包括センターへの市の支援体制、また在宅介護を支える訪問介護事業の国の基本報酬引き下げにより、介護の現場が人手不足に陥りかねない事態について、市の所見を伺いました。

これに対し、健康福祉部長より、地域ケア会議に市も加わり共通課題を把握するなど、地域体制づくりに努めているとの答弁がありました。また、基本報酬引き下げ問題は状況を見て問題がある場合には国に申し入れるなど対応するとの答弁がありました。

🍀🍀 災害から障がい者を守ろう

災害時に障がい者が取り残されることのないよう、7.2%にとどまっている個別避難計画の急ピッチな展開が求められていることについて、健康福祉部長より、プラン作成は障がいの重度により個別に作成するので時間を要するが、早急に作成すべきと考えているとの答弁がありました。

市は「ももりんシルバーパスポート」について、利用者が約3割で、中には一人で年間67万円という多額の利用者がおり、税負担の在り方に疑問が生じた、との理由で、現在の上限無しから上限額を設け、タクシー利用の併用を加え、年間2万円(公共交通1万・タクシー1万)までとする見直し案を提案してきました▶この「ももりんシルバーパスポート見直し案」については他の議員からも質問があり、例えば、「郊外の病院に行くだけで往復2000円かかる高齢者にとって、上限額2万円では、月に1回分の補助にしかならないのでは」との質問に対して市当局は「致し方ない」というだけで、何の改善策も出されていません▶買い物や通院以外にも、習い事や友人との外出などに利用してきた方は、健康のために外出を減らさざるを得なくなったり、社会参加の機会を奪われることにならないか危惧されます▶高齢者が運転免許証を返納する際の公共交通の果たす役割や、公共交通の不便な地域にお住まいの高齢者に対する行政のフォローのあり方、さらには高齢者の健康や「安心・安全」など多角的な検証が求められていると思います▶また、タクシー併用案については一定の評価はできるものの、タクシー利用の際には「マイナンバーカード」が必要で、ゆくゆくは公共バスでもマイナンバーカードを使うことを考えているとのこと▶私が所属している建設水道常任委員会でも、「高齢者にマイナンバーカードを常時携帯させるのは問題があるのではないか」との意見も出ています▶マイナンバーカードは任意である上、今までも個人情報の漏洩や口座との紐付けによるトラブルが問題になっており、マイナンバーカード利用については慎重に考える必要があるのではないのでしょうか▶今回、「ももりんシルバーパスポート見直し案」の質疑の中で、市から「公平・公正」という言葉が何度も出てきました▶利用者に制限をかけることが果たして公平なのか、必要な人に必要な措置を講ずることは不平等なのか、疑問に思うのは私だけでしょうか▶昨年11月に行った「デジタルクーポン」のように、“利用できる人と、できない人”を生み出す施策にならないよう、今一度、市民の声をしっかり聞いてほしいと思います。